
1. バーナードのオーソリティー受容説を説明する

組織が成立するための 3 要素の一つがコミュニケーションであり、その中に命令の権威がある。権威には主観的側面と客観的側面があり主観的側面において、バーナードのオーソリティー受容説がある。

バーナードの定義によると権威とは「公式組織における伝達（命令）の性格」である。組織の構成員が命令を自己の貢献する行為を支配するものとして受け入れるものである。上司の命令が権威を持つかどうかは命令を受ける部下がその命令を受容するかどうかによる。権威は上司にあるのではなく部下が受入れることによって存在するのである。

部下が命令を受容するためには 4 つの条件が必要であり、この条件がすべて満たされたときに命令を受容することが出来るのである。

4 つの条件とは、①命令を理解すること②意思決定に当たり、命令が組織目的と矛盾しないと信じること③意思決定に当たり、命令が自己の個人的利害と両立できると信じること④精神的にも肉体的にも命令に従うことが出来ることである。

客観的側面による権威には「職位の権威」と「リーダーシップの権威」があり、これらは受容される命令そのものの性格である。 (A)